

ステークホルダーとテクマトリックスをつなぐIRマガジン「テクマティズム」

TECHMATISM

TechM@trix

証券コード 3762

第32期 報告書

2015年4月1日から2016年3月31日まで

Insight into the future

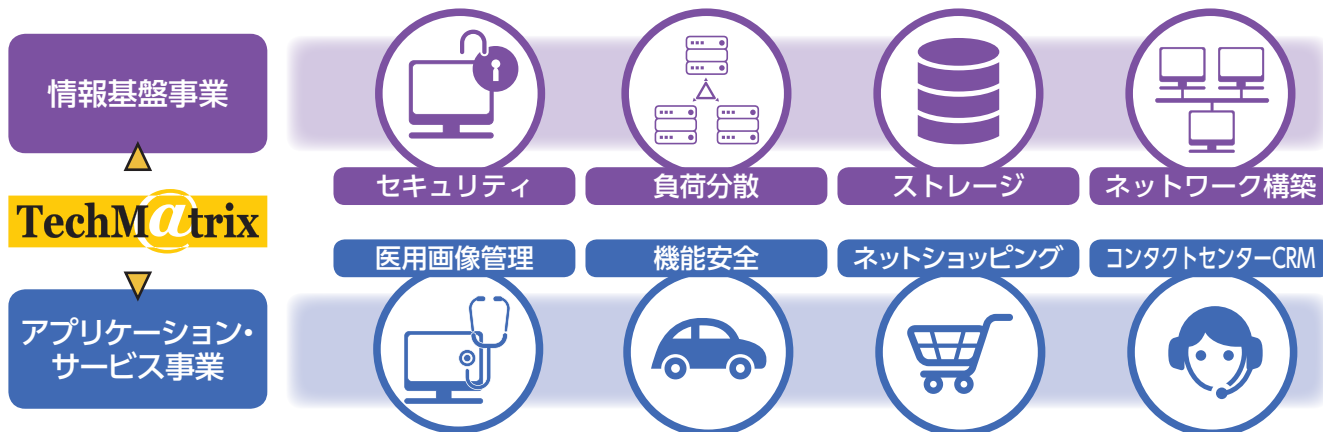


いたるところで
テクマトが。

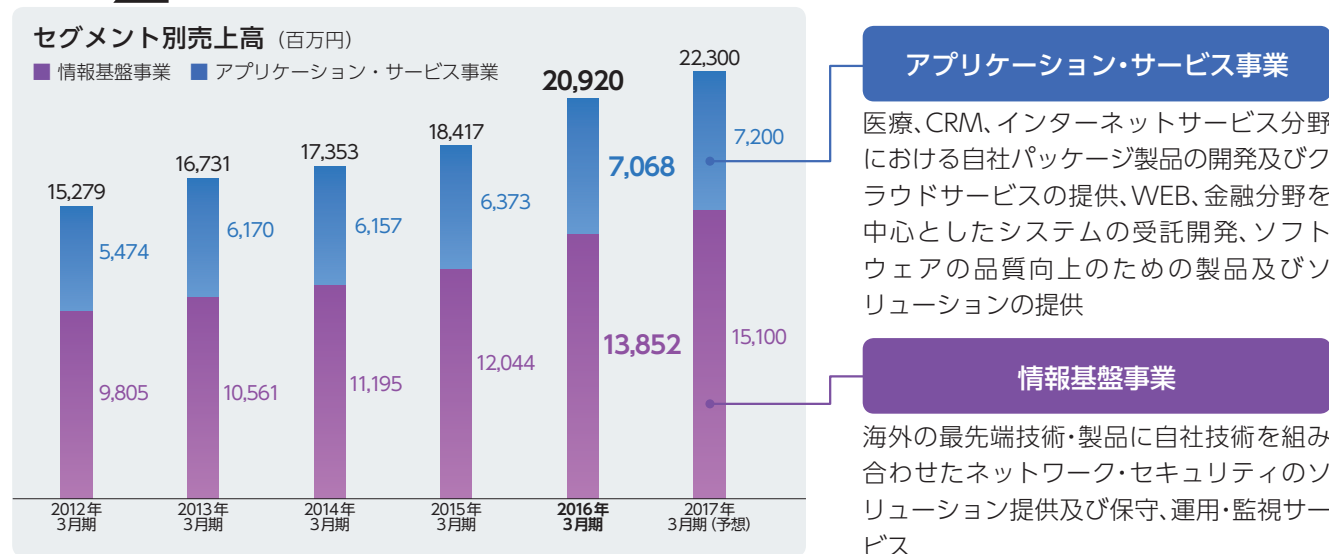
テクマトリックス株式会社

独自の強みを活かしながら、市場の変化を的確にとらえ、持続的な

Point 1 ▶ システムに関する幅広い事業領域



Point 2 ▶ 2つの事業のコラボレーションによる順調な成長

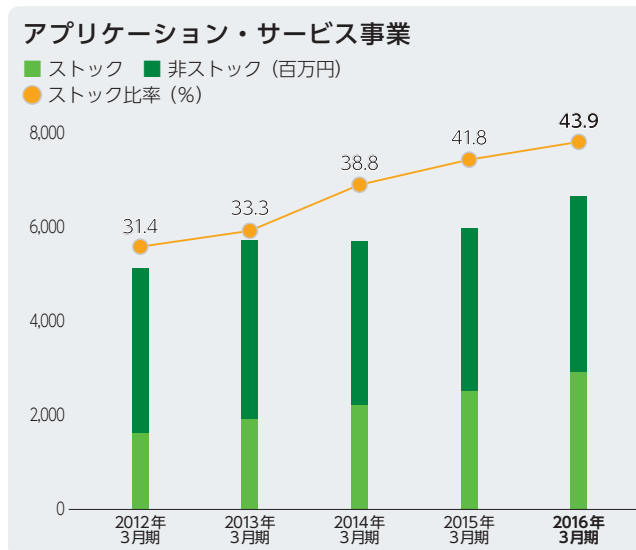
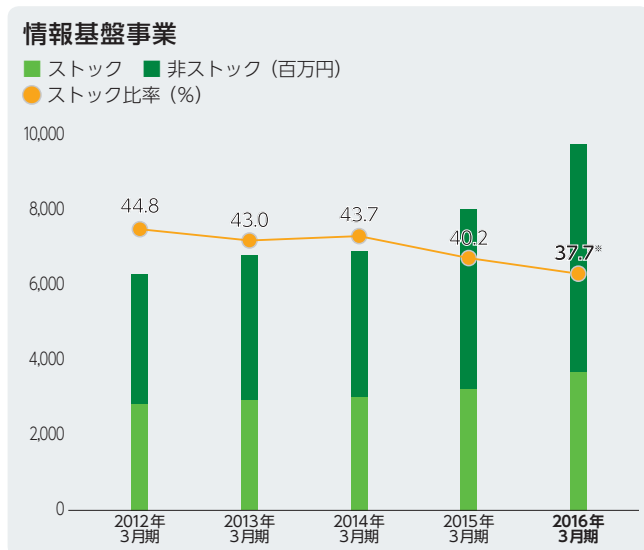


成長を実現しています。

Point 3 ▶ スtock収益モデルへ順調に移行

ストック比率とは保守・運用・監視サービス、クラウドサービスの売上の比率です。ストック型売上は、製品販売の「売り切り」とは異なり、サービス期間に応じて継続的に売上計上(経過処理)します。持続的な成長(売上)を遂げていくためには、ストック収益を中心とする事業構造へのシフトが不可欠です。情報基盤事業では製品販売とストック型売上をバランス良く成長させる40%程度が適切なストック比率です。アプリケーション・サービス事業ではクラウドサービスの売上高拡大により50%を目標としています。

ストック比率の進捗状況(単体)



※当期は、情報基盤事業で大型案件の獲得により、製品販売が増加したため一時的にストック比率が減少しています。

Point 4 企業価値向上のための施策

「次の30年プロジェクト」
ブランディング

詳細は6ページへ▶

医用画像システム
「NOBORI」の拡大

詳細は7-8ページへ▶

中期経営計画
「TMX 3.0」
1年目の進捗

詳細は9-10ページへ▶

SUSTAIN

ITサービスクリエイター、プロバイダーへの進化を目指し、着実に前進していきます。

代表取締役社長 由利 孝

当期(2016年3月期)を振り返って

当期の国内ITセクターは、サイバー攻撃の巧妙化やマイナンバー制度の導入を背景にセキュリティ対策のニーズが増加、クラウドサービスの利用も進むなど、民需・官需ともに順調な拡大を示しました。

そうした中、当社では情報基盤事業及びアプリケーション・サービス事業がそれぞれ好調に推移しました。特にネットワーク・セキュリティ分野における大型案件の獲得や、医療分野の医療情報クラウドサービス「NOBORI」の導入拡大が受注高・売上高の伸びを牽引しました。加えて、ソフトウェア品質保証分野の組み込みソフトウェア用テストツールの販売が計画以上に増加し、利益面で大きく貢献しました。その結果、当期の連結業績は、売上高及び各利益において過去最高を更新する増収・増益を果たしました。

重点課題であるストック収益へのシフトは、情報基盤事業の売上高におけるストック比率が、好調な製品販売の影響もあり40%前後の目標に対し37.7%、アプリケー

ABLE GROWTH

決算ハイライト

	2016年3月期(予想)	2016年3月期(実績)	2017年3月期(予想)
売上高	20,400百万円	20,920百万円	22,300百万円
営業利益	1,300百万円	1,381百万円	1,650百万円
経常利益	1,300百万円	1,420百万円	1,650百万円
親会社株主に帰属する 当期純利益	840百万円	829百万円	1,030百万円
1株当たり配当金	17円	20円	25円

当期業績のポイント

- 売上高、営業利益、経常利益、当期純利益：過去最高を達成
- 配当金：2015年8月に実施した自己株式の取得及び当期の業績の利益水準を踏まえて、配当金を20円へ増配

ション・サービス事業が、クラウドサービスの伸長により50%強の目標に対し43.9%となりました。もう一つの重点課題である医療分野の黒字化は、「NOBORI」の好調により売上高の拡大と損失額の縮小が進んでおり、予定通り今期(2017年3月期)において実現する見通しです。

中期経営計画「TMX 3.0」の初年度進捗

当期からスタートした3ヵ年中期経営計画「TMX 3.0」は、「次世代のITサービスクリエイター・ITサービスプロバイダー」を当社のあるべき姿として掲げています。

事業戦略における「クラウド関連事業の戦略的・加速度

的推進」では、高付加価値なクラウドサービスを自らエンドユーザーに提供していくことを目指しています。当期においては、小規模医療機関から大規模病院までを顧客とする「NOBORI」の導入実績の拡大や遠隔読影サービスの中国展開といった医療分野での取り組みを推進しました。また、CRM分野のコールセンター向けクラウドサービスの拡販やタイでのサービス提供、ネットショップ向けバックオフィスクラウドサービスの大幅な機能増強なども併せて実施しております。

「セキュリティ&セイフティの追求」においては、セキュリティ対策製品や関連サービスのラインナップ強化

ならびに、ソフトウェア品質保証分野の売上増で実績を上げることができました。

一方、オペレーション戦略として、「コストダウンによる高収益化」に向けて、本社移転による機能統合やベトナムでのオフショア開発の利用拡大を行いました。また「直販力強化、官公庁需要の深耕」が着実に進展し、受注拡大につながっています。

こうした取り組みの結果、当期の業績は、「TMX 3.0」の初年度計画数値を上回っており、極めて順調に進捗したと評価しています。

今期(2017年3月期)の見通し

現在の受注状況を踏まえ、今期も引き続き増収・増益基調の維持・拡大を見込んでいます。しかし、年明け以降の円高傾向やマイナス金利の導入による影響など、外部要因への懸念が高まりつつある中、「TMX 3.0」2年目の目標数値の達成は楽観視しておらず、それなりに高いハードルと認識しています。

今期は、重点課題である医療分野の黒字化を果たし、ストック収益化による体質改善を進めつつ、「TMX 3.0」の事業戦略及びオペレーション戦略を着実に遂行し、目標の達成を目指してまいります。

新たな取り組みとしては、自社やパートナー企業がもつ独自ソリューションのクラウド提供を可能とする「NOBORI」のプラットフォーム化(NOBORI-PAL)を進めました。併せて、大幅に機能強化したコンタクトセンター向け次世代CRMシステムの拡販も強化しました。海外においては、中国市場における医療分野の合併事業及びASEAN諸国を対象としたCRM分野のコンタクトセンター向けクラウドサービスを軌道に乗せていく考えです。



株主の皆様にお伝えしたいこと

当期の期末配当は、前期比5円増配の1株当たり20円(配当性向24.2%)とさせていただきます。今期の期末配当は、さらなる利益水準の向上を前提に、5円増配の25円を予定しています。

すでにご承知の通り、当社は筆頭株主であった楽天株式会社より当社株式売却の意向を受け、2015年8月21日付でこれを自己株式として取得しました。当社は経営の独立性を高めながらも楽天との良好な取引関係をこれまで同様に維持しており、結果として自己株式の取得も含め、株主価値向上につなげることができたと考えています。なお取得した自己株式は、事業拡大に向けたM&A戦略への利用など、将来につながる機動的な資本政策に活かしていく方針です。

私たちは、中期経営計画「TMX 3.0」の目標達成を通して持続的な成長を実現し、株主の皆様のご期待に応えながら、より大きな社会的貢献を果たしてまいります。株主の皆様には、当社の取り組みにご注目いただき、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「次の30年プロジェクト」とは

テクマトリックスは2013年に東証一部に上場し、2014年に創業30周年を迎えました。
企業の寿命と言われる30年を超え、次の30年に向けたテクマトリックスの姿を社員が自発的に考え、
その実現に向けて活動していくため、「次の30年プロジェクト」を発足しました。

Next
30 years

テクマトリックスのブランドを強化

「次の30年プロジェクト」では、社内外へ当社の魅力を発信するために様々な取り組みを行っています。
まずは企業アイデンティティの明確化を目標とし、「ブランドメッセージ」を作成しました。

テクマトリックスのあるべき姿を 表現した「ブランドメッセージ」

作成した「ブランドメッセージ」を泉岳寺駅に広告掲載するなど、社内外へ当社の魅力を発信しています。



超越を、創る。

TechMatrix BRAND MESSAGE

既成の枠組みを超えて、
お客様の期待や想像をも遥かに超えて。
最先端のIT技術とナレッジを駆使し、
多様なお客様のビジネスに
かつてない変革を提供し続けてきたテクマトリックス。
私たち一人ひとりには、ビジネスの環境がどんなに変化しても、
決して揺らぐことのない二つの価値観が深く刻まれています。
「拓く」と「匠む」。
それは、これまででもこれからも、
私たちが時代を超えて積み重ねていこうとする意志であり、
お客様への約束です。

2016年秋に ホームページをリニューアル予定

今回のリニューアルでは、テクマトリックスらしさを伝えるため、デザインにも工夫をこらしています。今後とも多くの株主様にご利用いただけるサイトを目指し、内容のさらなる充実化を図り、より活用しやすい情報提供を行っていきます。

医療分野で進むクラウド化 新たな市場を創造する 「NOBORI」



NOBORI



医用画像のクラウド解禁と ともに成長した「NOBORI」



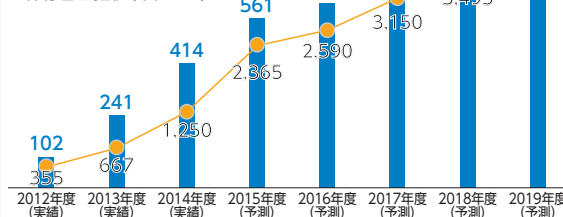
1990年、医用画像の電子保存の解禁が政府から通知され、年間500億円超と言われる医療系フィルムマーケットが全く新しいシステム市場に転換しました。

当社もPACS(Picture Archiving and Communication System、医用画像システム)の開発をスタートし、当時は医療機関が管理するオンプレミス型で市場参入を果たしました。2010年には将来サービス拡大が見込めるクラウド解禁を見据えた開発に集中。2012年10月、クラウド解禁の厚労省通達の2週間前に「NOBORI」のサービスを開始しました。現在では、クラウドPACS市場で、高いマーケットシェアを獲得しています。

2015年度(予測)の国内契約施設数561に対し、
当社は累計**450**施設を達成。

クラウドPACS市場規模予測

■国内契約施設数(単位:施設)
●保存容量推移(単位:TB)



※予測値は2016年1月現在

出所:矢野経済研究所

「2015年版医用画像システム(PACS)・関連機器市場の展望と戦略」(2016年1月)

徹底的なユーザー目線で 開発された「NOBORI」



「NOBORI」は、医用画像情報を安全に保管・共有できるクラウドPACSです。専用アプライアンスサーバの「NOBORI-CUBE」にて大規模病院からクリニックまであらゆる規模の病院・医療機関に対応でき、システムを常時監視することで、機器の障害対応、更新もスムーズに行うことができます。初期投資も不要で、使用料課金でコスト面でも経済的なことから、これまで導入をためらっていた医療機関から高く評価され導入が進んでいます。これらは、お客様とのコミュニケーションを通じて培われた、徹底的なユーザー目線から開発されたものです。

「NOBORI」はみんなをサポート。

病院・医療機関にも、医師・医療スタッフにも、そして患者・生活者にも、「NOBORI」はみんなに役立つクラウドサービスです。



IT技術の進歩や患者・医療機関のニーズの高まりから、PACSのクラウド化が拡大しています。当社の取り組みについてご説明させていただきます。

よだ よしひさ
依田 佳久

取締役上席執行役員
医療システム事業部長



エコシステム・グローバル・パーソナル と広がる「NOBORI」の未来

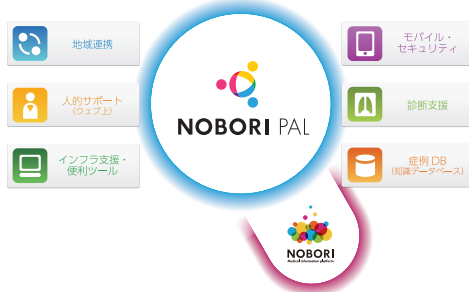
2016年4月、「NOBORI」のエコシステム化第一弾として、医療現場でニーズが高いサービスを提供する「NOBORI-PAL」を開始しました。これは、「NOBORI」をプラットフォームとして、様々な他社開発サービスを安全かつ低コストで提供するものです。この他にも、画像情報以外の電子カルテに代表される様々な診療情報のバックアップや医療情報交換のプラットフォームとして「NOBORI」をご利用いただくことも計画しています。

また国内の医療機関だけではなく、東南アジアを中心とした営業活動にも注力してきました。2015年8月には中国に

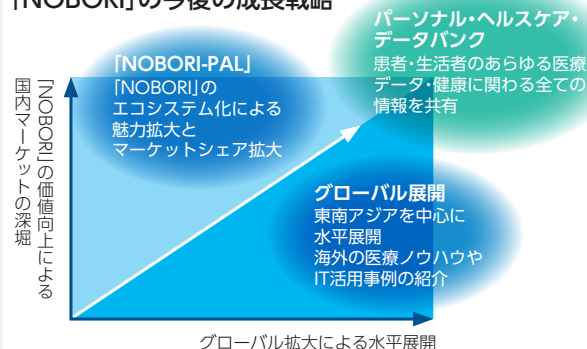
合併会社を設立、今後もグローバルな水平展開を視野に入れた営業活動を加速していきます。また海外の医療ノウハウやIT活用事例を積極的に国内の医療機関に紹介する活動も注力していきます。

長期的には、「NOBORI」は患者・生活者のあらゆる医療データ、健康に関わる全ての情報をお預かりして、ライフステージに合せて、本人の選択と意思で、信頼する医師や専門の医療サービスと情報共有する、「パーソナル・ヘルスケア・データバンク」となることを目指しています。これまで同様に、様々な課題について誠実に取り組んでいきますので、温かく見守ってください。よろしくお願いいたします。

PACS機能やデータ保存にとどまらない、
医療機関のための新しいサービス「NOBORI-PAL」。



「NOBORI」の今後の成長戦略



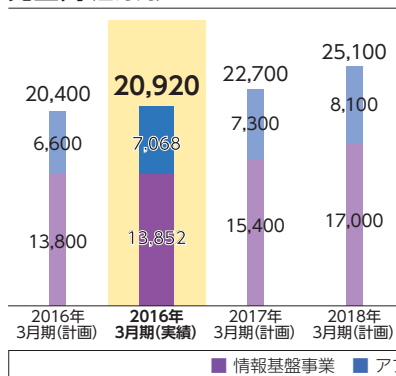
中期経営計画「TMX 3.0」

1年目の進捗と 今後の課題

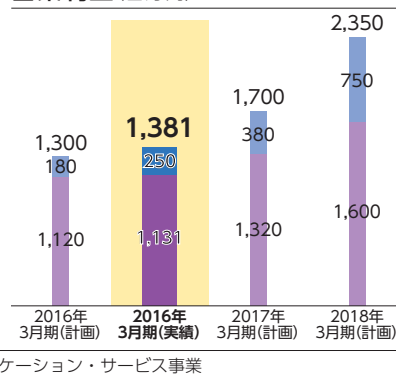
2015年5月に3カ年中期経営計画「TMX 3.0」を策定しました。当期の売上高及び営業利益は初年度の目標数値を達成し、過去最高を更新しました。

連結売上高・営業利益の計画と実績

売上高(百万円)



営業利益(百万円)



順調に進んだ テーマ

- ▶ クラウド関連事業が計画通りに進捗し、アプリケーション・サービス事業のストック比率が増加
- ▶ セキュリティ対策製品や関連サービスのラインナップ強化
- ▶ 組込みソフトウェアの機能安全関連でソフトウェア品質保証分野の売上が増加

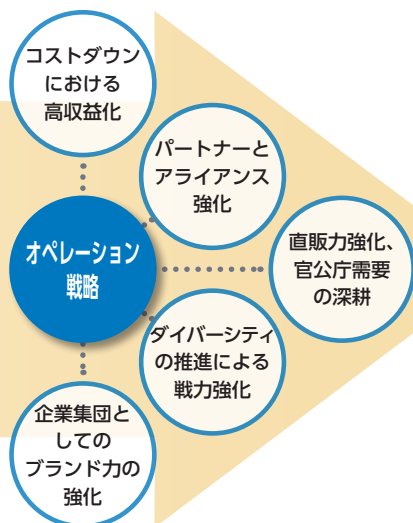
テーマ: 次の30年に向けた 土台固めと方向付け(成長遺伝子の確立)

基本方針

従来のIT産業の労働集約的な請負型ビジネスから脱却し、自らITサービスを創造し、ITサービスを提供する「次世代のITサービスクリエイター」、
「次世代のITサービスプロバイダー」への変貌を継続する

事業戦略

クラウド関連事業の
戦略的・加速度的推進
セキュリティ&
セイフティの追求



施策▶1 「FastHelp5」の販売開始

コンタクトセンターCRMシステムの新バージョン「FastHelp5」の販売を開始しました。

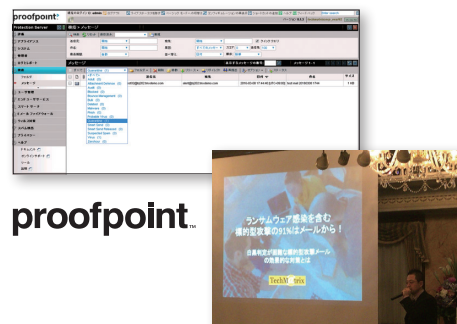
「FastHelp5」は、当社が約20年にわたって積み重ねてきた経験・ノウハウ・技術を結集した「FastHelp」の最新バージョンです。「コンタクトセンターからビジネスを強くする」をキーコンセプトに、業務効率を向上させるトークスクリプト機能やメッセージング機能、回答支援機能などを追加・強化したことで、コンタクトセンターの生産性向上と対応品質向上を実現します。



施策▶2 次世代型メールセキュリティソリューション「Proofpoint」の販売開始

アメリカのProofpoint社のメールセキュリティソリューション「Proofpoint」の販売を開始しました。

近年、正規の電子メールを装った標的型メールのURLや添付ファイルをクリックすることにより、コンピュータウィルスに感染し、機密情報が盗まれるなどの被害が急増しています。メールによる標的型攻撃は、より巧妙化し従来の対策製品だけでは防ぐことが難しくなっています。メールセキュリティソリューション「Proofpoint」は、そのような未知の攻撃を未然に防ぐだけではなく、万が一感染リスクが生じた場合、その内容を可視化することが可能です。



施策▶3 高性能テスト自動化ツール「Ranorex」の販売を開始

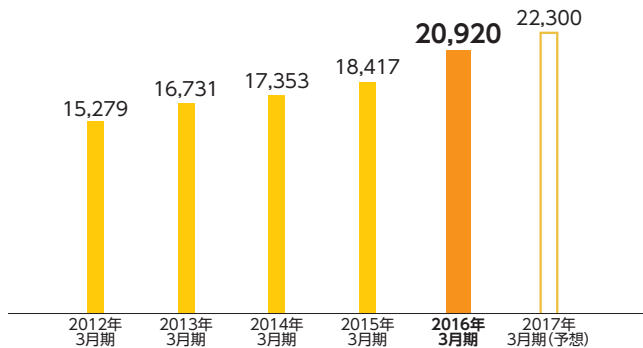
オーストリアのRanorex社の国内総販売代理店として、UI(ユーザーインターフェース)テスト自動化ツール「Ranorex」の販売を開始しました。

「Ranorex」は、ソフトウェアやアプリケーション(アプリ)を使用するユーザーが操作する実際の画面(UI)のためのテスト自動化ツールです。テスト対象となるソフトウェアやアプリの操作を詳細に記録・再生することができる高性能UIキャプチャ機能を搭載しており、テストの自動化を支援します。また、アプリ画面の機能を的確に認識できるため、プログラミングの専門知識がなくても、効果的なテストを組み立てることが可能です。

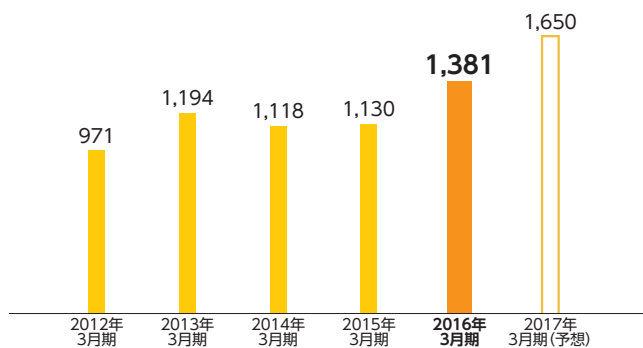


損益の状況／資産の状況

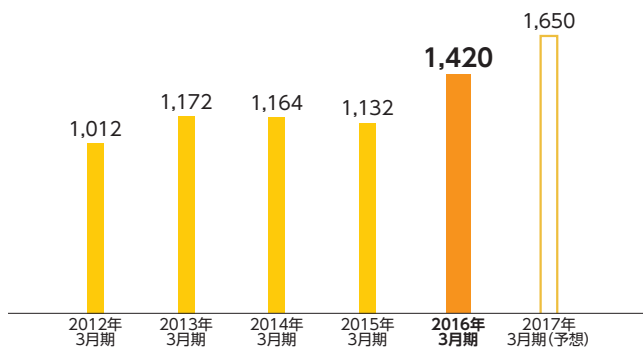
売上高 (百万円)



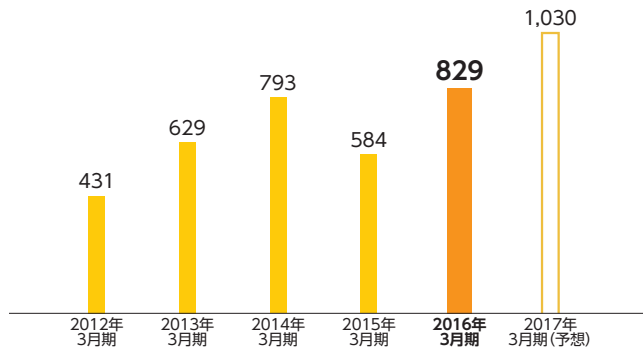
営業利益 (百万円)



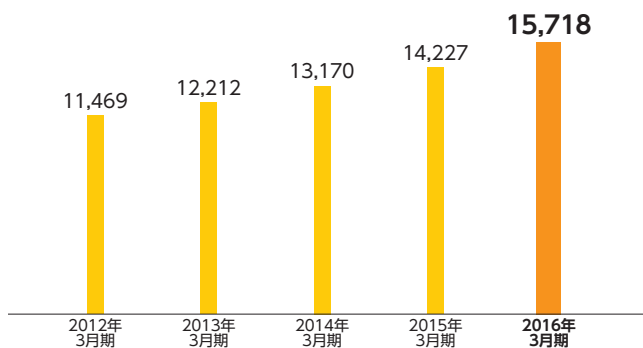
経常利益 (百万円)



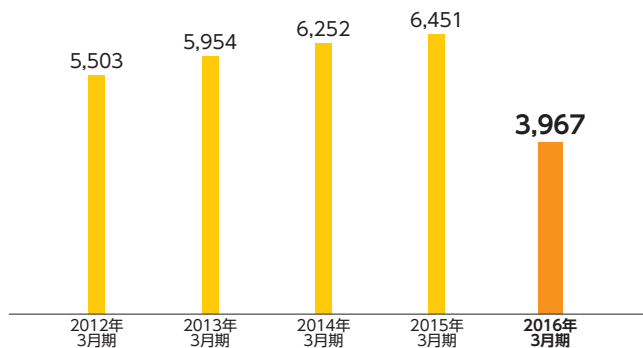
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)



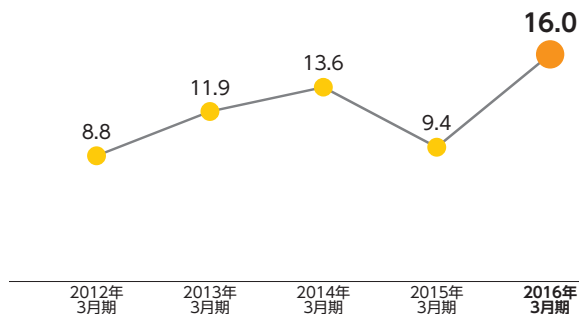
総資産 (百万円)



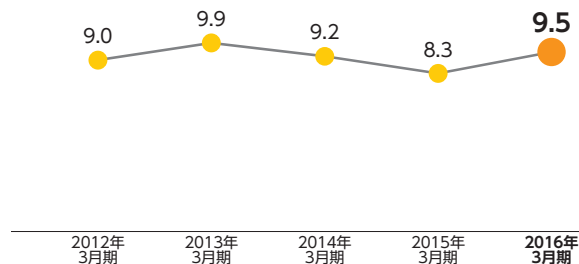
純資産*1 (百万円)



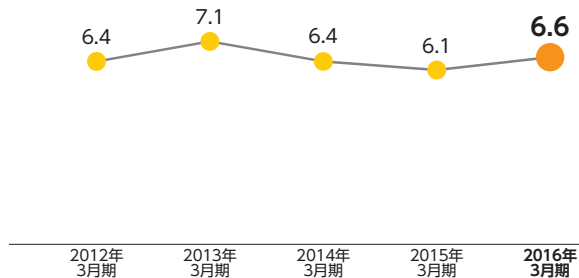
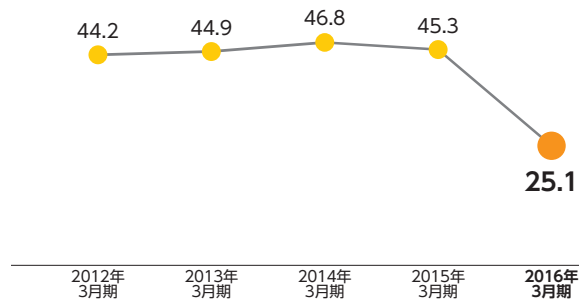
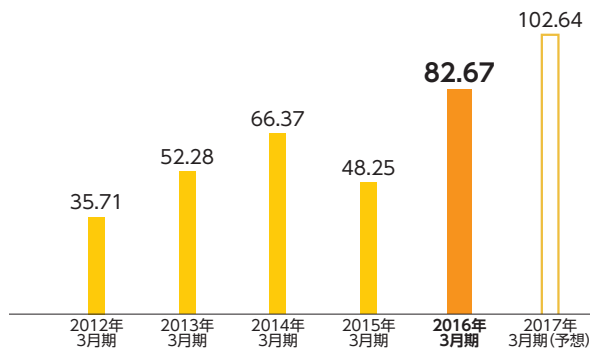
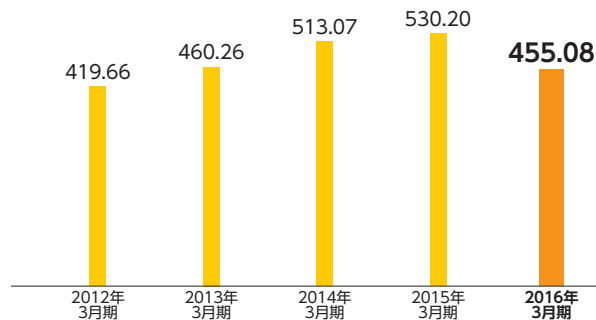
収益性・安定性・1株当たりデータ

自己資本当期純利益率(ROE)^{※1}(%)

総資産経常利益率(ROA)(%)



売上高営業利益率(%)

自己資本比率^{※1}(%)1株当たり当期純利益^{※2}(円)1株当たり純資産^{※2}(円)

※1：純資産・自己資本比率の減少及び自己資本当期純利益率(ROE)の増加は2015年8月21日に実施した自己株式取得によるものです。

※2：2013年4月付で株式1株につき200株の株式分割を行っております。1株当たり当期純利益及び1株当たり純資産につきましては2012年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して表示しております。

■ 会社概要 (2016年3月31日現在)

商 号 テクマトリックス株式会社
 (英語名: TECHMATRIX CORPORATION)
 設 立 1984年8月30日
 上 場 2005年2月18日
 証券コード 3762
 資 本 金 12億9,812万円
 従 業 員 数 976名(連結)
 本社所在地 〒108-8588 東京都港区三田3-11-24
 国際興業三田第2ビル
 TEL : 03(4405)7800 (代表)
 FAX : 03(6436)3500

■ 役員の状況 (2016年6月24日付)

代表取締役社長 由利 孝
 取締役上席執行役員 依田 佳久
 取締役上席執行役員 矢井 隆晴
 取締役執行役員 鈴木 猛司
 社外取締役 安武 弘晃
 取締役(常勤監査等委員) 小川 博章
 社外取締役(監査等委員) 高山 健
 社外取締役(監査等委員) 三浦 亮太
 社外取締役(監査等委員) 杉原 章郎

グループ会社紹介

株式会社カサリアル



株式会社カサリアルは、Webやスマートフォン等に代表されるオープンソース環境に特化したシステム開発、その自社開発部門で実証された知見を基により実践的な技術者教育を提供しています。加えて高品質なシステム構築を実現するため、開発上流工程から下流まで広範囲なテスト支援を提供しています。

<http://www.casareal.co.jp/>

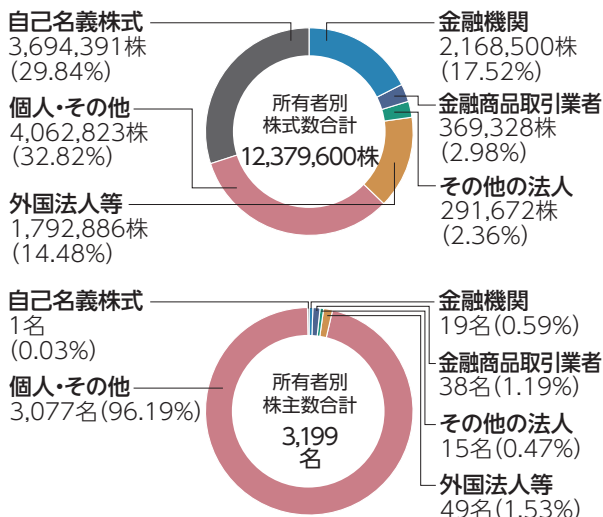
■ 株式の状況

発行可能株式総数 41,472,000株
 発行済株式の総数 12,379,600株
 株主数 3,199名

■ 大株主の状況

株主名	所有株式数 (株)	持株比率 (%)
テクマトリックス株式会社	3,694,391	29.84
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,190,500	9.61
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC/FIM/ LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS	520,000	4.20
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	408,400	3.29
テクマトリックス従業員持株会	375,700	3.03
徳山 教助	355,500	2.87
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	252,642	2.04
熊谷 恵美	223,500	1.80
THE BANK OF NEW YORK MELLON (INTERNATIONAL) LIMITED 131800	193,300	1.56
KBL EPB S.A. 107704	171,000	1.38

■ 株式分布状況



当社の
最新情報は

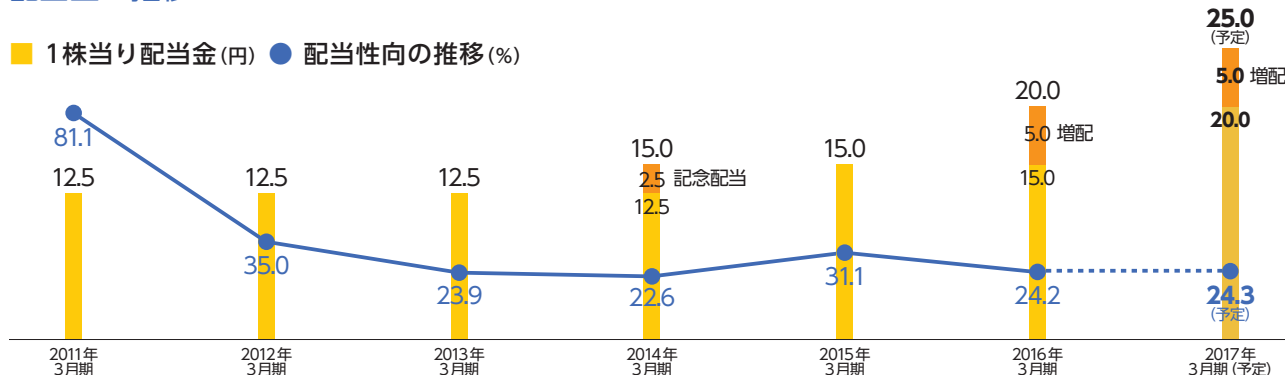
テクマトリックス IR

検索

<http://www.techmatrix.co.jp/ir/>

With Our Shareholders 株主インフォメーション

配当金の推移



※2013年4月1日付で株式1株につき200株の株式分割を行っています。そのため2011年3月に当該株式分割が行われたと仮定して、配当金を表示しています。

※2017年3月期の配当性向は、2017年3月期の業績予想と、2016年3月期の期中平均株式数で算出しています。

株主優待のご紹介

対象

毎年9月30日現在の当社株主名簿に記載または記録された500株以上の当社株式を保有する株主様

優待内容

500株以上

1,000円相当の商品または寄付

1,000株以上

3,000円相当の商品または寄付

人気が高い商品を中心に、
より皆さまにお喜びいただける内容を目指しています。

当社は、毎年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された、当社株式を500株以上保有する株主様を対象に株主優待を実施しています。保有株式数に応じた価格帯から、食品や雑貨などお好きな商品または寄付を1点お選び頂く内容となっています。

株主優待の一例



横浜本牧亭
ビーフカレー



ミヤチク 宮崎県産
黒毛和牛焼肉用



トンデンファーム
ソーセージ・ベーコンセット

※写真はイメージであり、実際の商品と異なる場合がございますのでご了承ください。

IRカレンダー

2016年 7月29日(予定) 第33期第1四半期決算発表

2016年 10月31日(予定) 第33期第2四半期決算発表

2016年 12月 (予定) 個人投資家様向け説明会(名古屋)

2017年 1月31日(予定) 第33期第3四半期決算発表

2017年 2月 (予定) 個人投資家様向け説明会(東京・大阪)

2017年 3月 (予定) 個人投資家様向け説明会(東京・名古屋)

30組
80名超！

家族参加型イベント 「ファミリーデー」を開催

「同僚の家族の顔が見える職場」、「家族が安心して送り出してくれる職場」でありたい、という思いのもと2016年1月に、第1回「テクマトリックスグループ ファミリーデー」がテクマトリックス本社で開催されました。

子供たちには手作りの名刺が贈呈され、社員と名刺交換を行いました。名刺を交換すると、事前に配ったスタンプカードに社員からスタンプが貰えます。ゲーム感覚で子供たちも夢中になって楽しんでいました。職場を知ってもらうだけではなく、社員と社員の家族が触れ合う場にもなりました。

「すごく楽しかったです。大満足！」というお言葉も頂き、第1回ファミリーデーは大成功でした。今後も継続的に開催する予定です。



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日
株主優待割当基準日	9月末
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部

公告の方法

電子公告の方法により行います。ただし、電子公告による事ができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL <http://www.techmatrix.co.jp/>

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承る事となっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。
なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

テクマトリックス株式会社 証券コード：3762

〒108-8588 東京都港区三田3-11-24 国際興業三田第2ビル
TEL：03(4405)7800(代表) FAX：03(6436)3500

